



「1943年2月号『良い子の友』に掲載された漫画。いずれも後のカットやワカメを思わせるような子どもたちが登場する。©長谷川町子美術館

長谷川

子の署名を見ても、西歐的でモダンなタッチに、別人の作品と見たという。町子は20(大正9)年、佐賀県に生まれ、後に福岡市へ転居。父の死後、母と姉、妹の一家で東京へ移り住み、田河水泡の弟子に。15歳

に活動していると思われる。来た。「小学館では長期の連載がなかったせい、数多くの作品を発表していたことは社内でも知られていなかった」と佐藤さん。今回見つかったのは、39歳、43年に描かれた作品。職

やんといった子どもたちや、磯野家の雰囲気を感じさせる漫画もある。40年の「小学六年生掲載の「かんちがひ」は、後に同じ内容で登場人物を替え「サザエさん」の4コマになった。また、中には「フクちゃん

一部作品は28日に京都市の「美術館」(えきKYOTO)から始まり、その後広島、東京、名古屋に巡回する「よりぬき長谷川町子展」(朝日新聞社など主催、長谷川町子美術館協力)でも公開される。(富森ひな子)

僕たちを助けて

日、「EU(欧州連合)諸国の政府へ、助けて下さい」と書かれたフラカードを渡した子どもをシリア難民が抱えた。ギリシャとEU当局は、保護が認められなかった難民をトルコに送還する方針だ。当局は送還の詳細についてコメントをしないが、ギリシャのレスボス島から4日に始まる」とされる。AFP時事

ギリシャのレスボス島で3日、「EU(欧州連合)諸国の政府へ、助けて下さい」と書かれたフラカードを渡した子どもをシリア難民が抱えた。ギリシャとEU当局は、保護が認められなかった難民をトルコに送還する方針だ。当局は送還の詳細についてコメントをしないが、ギリシャのレスボス島から4日に始まる」とされる。AFP時事

ニート支援手探り10年

就労も就労もしていないニートの若者をどう仕事に導くか。国が全国に相談窓口「地域若者サポートステーション(サポステ)」を設け、本格支援に乗り出して今年で10年たった。名古屋市内で支援の現状を探った。

36歳 講座通い 将来語り合う

「今思うと、ただ心臓が動いていただけのような生活でした」。名古屋市熱田区の男性(36)は約10年間、実家に引きこもる生活を送った。広告会社での電話のやり取りで営業先を怒らせ、契約破棄になったのがきっかけ。「心がボキッと折れてしまいました」。ほ



週2日、将来を語り合う講座に参加したり、言葉を上手に伝えるための勉強を

26歳 あがる癖 バイトで克服

名古屋市昭和区の男性(26)は昨年、愛知県内の大学院を卒業後、就職活動でつまづいた。約30社に申し込んだが、面接に進められたのは5社ほど。全て1次面接で落ちた。

長期化や高年齢 顕著

「面接が苦手。緊張で極度にあがってしまう」。ハローワークで紹介され、昨秋からサポステに通い始めた。講座やカウンセリングを受け、サポステの紹介でアルバイトをし、人に接する機会を増やすことで苦手意識を和らげた。「サポステがなかったら、実家に帰っていたと思う」。失っていた自信を取り戻し、3月からは派遣社員として働いている。

集団で仕事体験 プランク埋める

未就労期間が長くなった若者には、グループでの仕事体験が効果的だ。東京や神奈川、大阪などでニート支援に取り組む認定NPO法人「育て上げネット」(東京)はいう。

僕たちを助けて

13年から約2年間、相談に訪れた15〜39歳の男女計3384人のアンケートをもとに調査を実施した結果だ。

「地域若者サポートステーション」は2006年、国の方針で設置された。全国158施設の運営を国が民間に委託している。厚生労働省によると、昨年の統計でニートは全国に約56万人いるが、06〜14年度の間、約19万人がサポステを利用し、約8万3千人が就労につなげた。

計でニートは全国に約56万人いるが、06〜14年度の間、約19万人がサポステを利用し、約8万3千人が就労につなげた。

3年以上仕事をしていない若者が定期的にグループで仕事体験をしたら、仲間との協力で得られる自己肯定感や自信につながり、6割以上が就労に結びついたという。

私の救済

あの人の「思い出の瞬間」を紹介

読まれた5

http://t.asahi.com/top5

3日のデジタル版のアクセスを集計